

大阪府立砂川厚生福祉センターつばさ

つばさの支援



【つばさの概要】

つばさは、障害者総合支援法に基づいた障がい者支援施設として、触法行為あるいはそれに類する行動ゆえに、地域での生活が難しくなった中軽度の知的障がい・発達障がいのある方を受け入れています。つばさではこうした方々の行動を「社会関係障がい（*1）」として捉え、生活環境等の改善と、反社会的・非社会的行動を改善ないし軽減するためのプログラムを行うことにより、地域生活移行の支援をしています。

「社会関係障がい」の具体的な例として、暴力、性犯罪、窃盗、引きこもり等が挙げられます。刑務所や少年院から入所に至った方や、司法機関に直接関わってなくとも、反社会的・非社会的行動により地域でのサービスを受けることが困難な方などが入所しています。

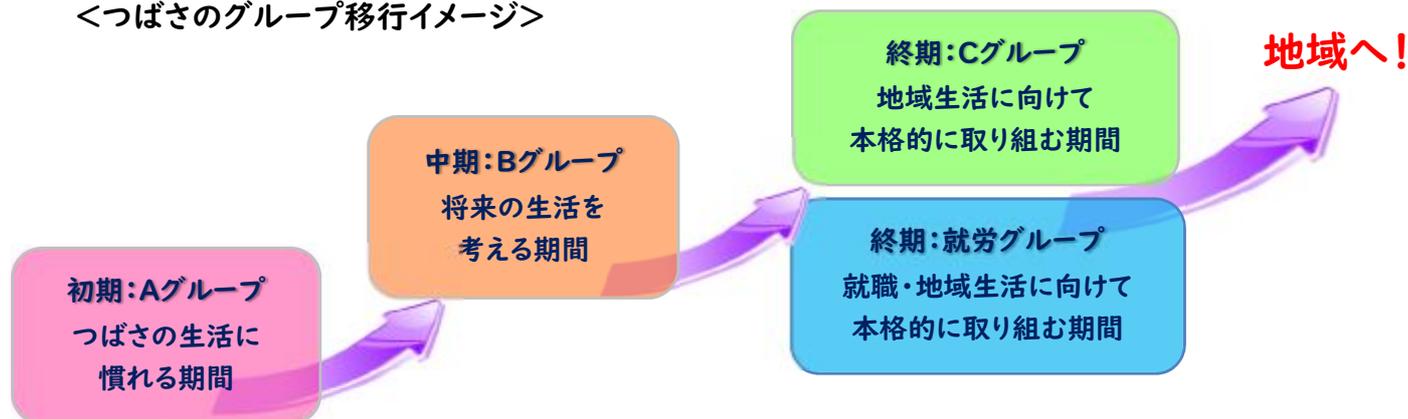


*1:「社会関係障がい」とは、大阪府立砂川厚生福祉センターの再編整備計画で使用しており、ここでは「中軽度の知的障がい者で、概ね青年期の年齢にあり、家庭や地域において生活及び社会的な習慣やルール、対人関係などの習得が困難なために生じる、反社会性や非社会性のある行動が顕著で、地域での対応困難な状態」としています。

【つばさの入退所について】

つばさの支援は2年という契約期間を設けています。その2年間で初期（観察とアセスメント情報の収集）、中期（生活改善支援）、終期（自立・就労移行支援）の3つに分けています。グループを時間軸と支援内容で分けることにより、利用者の目標とステップアップするイメージを分かりやすくして、就労や地域移行に向けた動機付けを図っています。

<つばさのグループ移行イメージ>



【つばさの入退所状況】

つばさは定員 30 名で運営しています。平成 21 年度に開所し、2 年契約というサイクルの中で利用者が入退所しています（図1）。課題別に見ると、平成 21 年度～令和 4 年度累計は、窃盗、性、暴力の順で多いですが、重複した課題のある方も複数おり、一概に課題は特定できません（図2）。

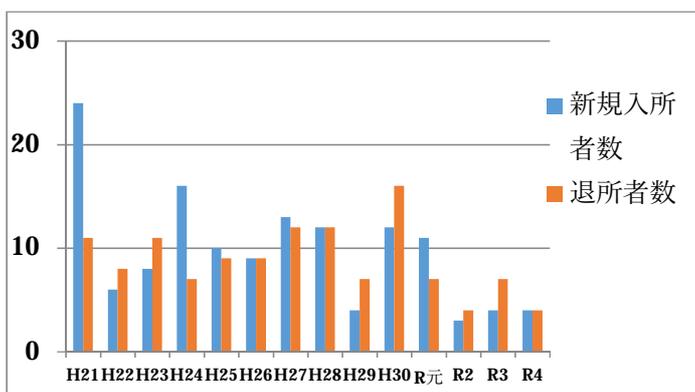


図1 つばさの入退所状況

※H21 においては、砂川厚生福祉センター旧寮から引き継いだ利用者は、新規入所より除く。

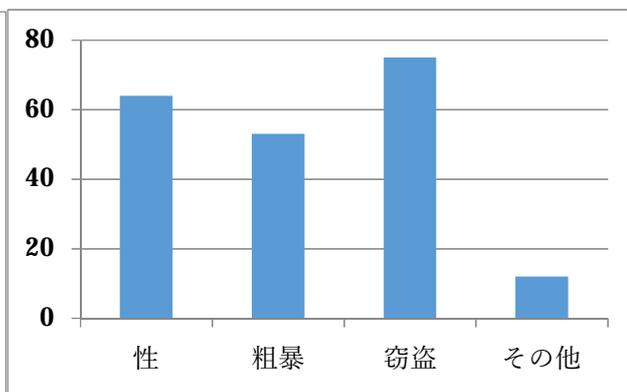


図2 H21～R4 年度 つばさ利用者課題別累計数

※課題の重複したケースも合算。

【つばさの特別支援プログラム】

つばさの支援における特徴として、利用者の課題に応じた特別支援プログラムが挙げられます。具体的には、認知行動療法を理論的背景とした **SST (ソーシャルスキルズトレーニング)・ACT (アンダーコントロールトレーニング)・性学習プログラム・窃盗回避プログラム**という4つのプログラムを作成・実践しています。これらのプログラムを活用して、個々の利用者の課題へのアプローチによる行動変容と、プログラムから得られた情報をアセスメントし、地域生活を実現する支援に生かしたいと考えています。いずれのプログラムも、知的障がいのある方でも理解しやすいよう、ロールプレイを用いる、VTRを提示する、絵や写真で伝えるなどの工夫をしています。

<プログラムの実施形式について>

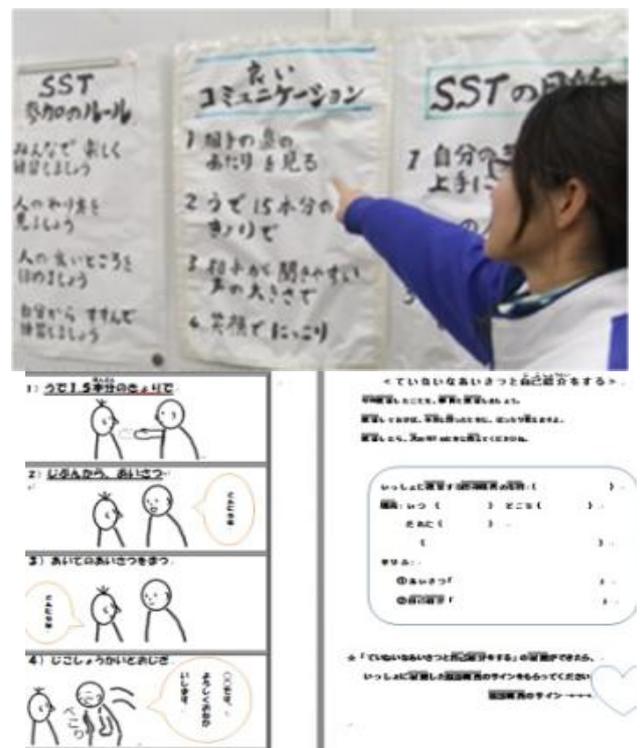
プログラムは**全体プログラム**と**個別プログラム**に分けられます。全体プログラムは、利用者全員が参加するグループワーク形式を取ります。各利用者の特性や能力等に応じ、1グループ7名前後でグルーピングします。利用者同士で考えたり、一緒に話し合ったりすることで、お互いによりよい影響が生まれます。そして、利用者も職員も、楽しくプログラムに参加することができます。

個別プログラムは、利用者と職員がマンツーマンで面接をする形式を取ります。自身の課題にじっくりと向き合うことで、相談しやすい関係を築き、課題の自覚を促します。また、対象利用者の情報や特性を深く理解できます。



<SST>

SSTは、日常生活で良い人間関係を作るためのコミュニケーションの方法を練習します。つばさのSSTプログラムでは、地域生活において特に大切と考えられる「聞く」「お礼を言う」「謝る」「頼む」「相談する」「断る」の6つのスキルを練習しています。ロールプレイを用いた体験型のトレーニングで、各利用者の体験や日常に即した場面を設定し練習します。プログラム終了後、セッションのポイントを4コマ漫画でまとめた資料を配布しています。宿題も記載されており、日常生活でも引き続き練習できるようにしています。

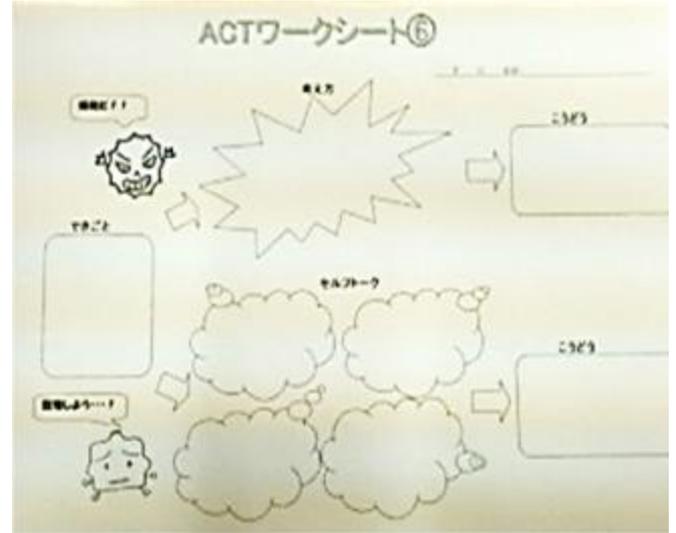


SST ワークシート例

<ACT>

ACTでは気持ちを整理し、正しく伝える練習をします。「様々な気持ちを分化できず整理できなくなった状態=アンガー状態」になると衝動性が高くなり、不適切な行動が起こりやすくなると考えられるためです。

実施形式は全体プログラムと個別プログラムの2つを行なっています。全体プログラムでは、「気持ちを分化する練習」と「ストレスにうまく対処する練習」をします。日常生活でよくある出来事を想定し、「自分ならどんな気持ちになるか」「自分ならどう解決するか」などについて、グループで話し合います。個別プログラムでは、利用者それぞれの課題を取り扱います。嫌な気持ちの溜め込み方や、間違った伝え方は、一人ひとり違います。「自分のパターン」に気づき、正しく気持ちを伝える方法について考えていきます。



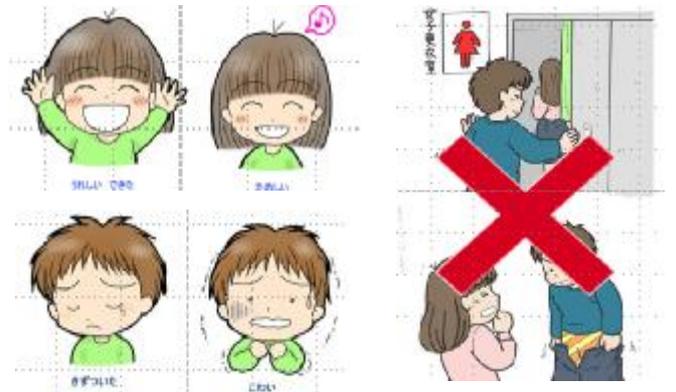
ACTワークシート例

<性学習プログラム>

つばさでは、性的逸脱行為は性を用いた暴力である点に注目し、性暴力と捉えています。また、性的行為そのものではなく、「両者の合意が無い」「場所が不適切」など、自己と他者、場所に関する境界線が明確でないことにも注目しています。

実施形式は全体プログラムと個別プログラムの2つを行なっています。全体プログラムでは、人間関係と性のルールについて確認します。全体プログラムで扱う内容は性暴力が課題の利用者だけでなく、地域で生活する上で全ての人に関係しています。個別プログラムでは、性暴力課題のある利用者を対象とし、ワークブックを用いた面接を中心に性暴力に至るサイクルについて考え、性暴力に至らない方法について具体的に考え、練習していきます。また、正しい性の知識についても話し合っていきます。

「人間関係のルール」	「性のルール」
1. 暴力はいけません。	1. さわってはいけません。
2. ウソはいけません。	2. さわらせてはいけません。
3. 無理やりさせてはいけません。	3. 見ようとしてはいけません。
4. 盗みはいけません。	4. 見せてはいけません。



<窃盗回避プログラム>

窃盗回避プログラムでは、窃盗行為に及ぶ背景要因やメカニズムを支援者と利用者が共有し、窃盗行為を回避する方法を具体的に考え、練習していきます。個別プログラムの実施形式をとっており、窃盗行為のある利用者を対象に実施しています。面接を中心に行いますが、ワークシートを図や漫画など視覚的にわかりやすくしたり、ロールプレイを用いるなど工夫をしています。

また、宿題として日記を使用しています。書かれた日記は、自分を振り返る練習、支援者とコミュニケーションを取る練習、窃盗行為を回避する具体的な方法を探し出す手がかりとしても活用しています。

